

電気興業は自動車部品の強度を向上するために利用する高周波誘導加熱装置を提供している。部品メーカーにとっては欠かせない装置で、高い競争力を保ってきた。高周波の焼き入れを活用する分野が広がることを見込まれており、新たな市場の開拓を進めている。産業廃棄物の処理設備への導入だ。

「景気動向の影響を受けないように、新規（の分野）への活用が会社の成長につながる」。伊藤

れノウハウを生かす狙い

### 電気興業

### 高周波誘導加熱装置

## 効率化・省エネに挑む

— エレクトロヒート技術最前線 6 —

# 産廃処理設備へ展開

をこう説明する。

電気興業は土砂処理設備などを製造する阿部鉄工所（愛媛県東温市）と連携し、廃棄物の処理設備に高周波誘導加熱の仕組みを導入している。プ



高周波誘導加熱を導入した産業廃棄物の処理設備

ラスチックなどを溶かせる炉を高周波により約600度Cに加熱し、短時間で処理できる。環境への配慮を重視した処理設備で、燃焼物と分離した油などを再利用可能。伊藤

藤執行役員も「高周波誘導加熱を環境対応の設備に活用できるのは重要なポイント」と説明する。

廃棄される医療器具などを処理するために有効で、医療機関への導入も見込んでいる。

電気興業と阿部鉄工所が連携した背景には、電気興業が培ってきた高周波発振機の信頼性がある。処理設備に海外の発振機を活用したところ壊れやすく、連続して運転

## 持続的に収益拡大

できなかったという。一方、開拓する必要性を指摘する方で、「我々の発振機は景気に左右されない壊れることなく、関心をビジネスモデルを確立し持ってもらえた」（高周波統括部）としている。所と進めている取り組み

電気興業は高周波誘導加熱装置に関するノウハウを60年以上にわたって蓄積してきた。例えばタイヤやハンドル部分の製品の強度や耐久性を高めるために使われており、自動車業界の多くの企業と密接な関係を築いてきたこともアドバンテージとなる。

電気興業は高周波部門の売上高が約100億円。ただ伊藤執行役員は「自動車向けはそれほど大きく伸びない」と成長を見込める新たな分野を

環境対応の処理設備というイメージが徐々に浸透すれば、自治体などからの引き合いが増えることが見込まれ、生産体制の拡充が求められる。そのため「発振機とコイルの提供だけでなく、設備一式を手がけたい」（伊藤執行役員）考え。高まることが予想される高周波誘導加熱のニーズを取り込むことで、持続的な収益の拡大を狙う。

（孝志勇輔）